

■狩谷掖斎 考証学者。書誌や考古遺品用い、今日なお批判に耐える精確さで研究、金石文・古泉学の基礎を築いた。

かりやえきさい

黄表紙始・・1775= 生。江戸下谷池之端で青裳堂と号する江戸の書店に生まれ、

\_\_早くから学問を好み、

意知刺殺事件1784= 9歳 :

田沼意次失脚1786=11歳 : 「続日本紀」を購入、

初の横綱・・1789=14歳 : \_\_古典を盛んに書写・比較したり、同志と会談を始め、

異学の禁・・1790=15歳 : 初めて西遊、

混浴禁止・・1791=16歳 : 父が死去、

松平定信引退1793=18歳 :

ワシガ 正月・ 1794=19歳 :

この頃、\_\_屋代弘賢に和漢の学の指導をうけ、市野米庵について漢学を修める。  
青年時代は日本古代文化の考証に努め、やがてその根源である漢籍善本の蒐集と披閲に進み、書誌学的方面に非凡な見識を示し、文献と共に考古遺品も集蔵し、見学の旅も行なって金石文・古泉の研究を成す。「説文」は最も親交のあった松崎棟堂・山梨稲川と共同で自由な討究を行なった。

蝦夷地直轄始1799=24歳 : 本家{津軽屋}に婿入りして、津軽屋三右衛門(12代目)を襲名、

一九膝栗毛始1802=27歳 :

\_\_津軽藩御用達という富裕な町人身分の中、日本古代文化の考証に努める。

・ ・ ・ ・ ・ 1810=35歳 : 妻が死去、

ゴロアノシ拿捕 1811=36歳 :

・ ・ ・ ・ ・ 1815=40歳 : \*特別に許しを得て隠居、自邸{求古楼}を会場として、松崎慊堂らとの研究会を重ねて比較考証の精細を極め、この年の「新校正孔方圖鑑」、

水野忠成老中1818=43歳 : \*日本金石学の基礎を築いたとされる名著「古京遺文」、

群書類従完結1819=44歳 : えき斎と号し、3度目の西遊、

・ ・ ・ ・ ・ 1820=45歳 : 「日本靈異記校証」、

伊能図完成・ 1821=46歳 : この年4度目の西遊、\_\_「上宮聖徳法皇説証註」など重要な考証をまとめる。

英船浦賀来航1822=47歳 : \*「和名類聚抄箋注」については、以後没するまで校訂を続け、

シホノハ 鳴滝塾1824=49歳 : 大病を患うなどした後、

シホノハ 追放・ 1829=54歳 :

富籤流行・・1830=56歳 : {津軽屋}新宅に移住、浅草の住居を实事求是書屋と称した。

富嶽三十六景1831=57歳 : \_\_正倉院開封の噂にのって西遊、

鼠小僧磔・・1832=58歳 : \_\_本当に開封となって拝観するなど、実物主義に徹した姿勢を示し、

高島砲術・・1834=60歳 : \*「転注説」をまとめてまもなく、病を得て没した。